

政務活動費活動報告（視察）

(1) 出席者（会派名・個人名）
会派：夢みらい 小川 喜三郎

(2) 実施日：平成 27 年 7 月 22 日

【 1. 調査の目的】

(1) 本市における現状

本年 3 月に策定された「彦根市子ども・若者プラン」による保育・教育の充実として、就学前保育・教育では保育・教育の共通カリキュラムの作成、保育士、幼稚園教諭の確保、認定こども園の整備、待機児童の解消等により、子育て環境の整備が計画された。この中で公立幼稚園からの認定こども園への移行園数を平成 31 年度までに 5 園が目標値としている。

(2) 本市における課題

園舎の整備や保育士等の確保、幼・保の共同カリキュラム策定など課題が山積されている。

【 2. 調査地選定理由】

(1) 調査項目

認定こども園の運営、共同のカリキュラムの実践、人材確保策等

(2) 選定地 1：

御殿場市立印野こども園（保育所型認定こども園）

御殿場市印野 1 4 5 7 - 2

【 3. 調査結果】

(1) 内容

印野こども園は、保育部分では①保育標準時間認定は 11 時間保育を②保育短時間認定では 8 時間保育の認定を受けている。対象児は 0 歳から 5 歳。

幼稚園機能としての短時間保育は、6.5 時間の認定を受けておられた。午後 3 時 30 分までで対象児は 3 歳から 5 歳までで午後保育も含むものであった。

共同のカリキュラムとして、午前 9 時から午後 3 時半までは合同の保育内容であった。それぞれ年齢ごとのクラス分けによる同じ教室での保育を実践されていた。子育て支援策であることから、日曜祝日と年末年始を除くすべての日を開園されており、夏季、冬季、春季等の長期休暇はない。通園する幼児に対し同じ内容の保育を実践されている。

(2) 考察

地域も積極的に園の運営支援をされていた。施設整備も素晴らしいものがあるが、一時預かり保育も含め、幼稚園と保育園の垣根を越えた共同保育には学ぶ点も多かった。

職員の方々も新制度で積極的に実績をつくるため、他園にない点を強調されていた。